

草の根の交流表彰 日米協会が賞創設

日米の民間交流を続ける「日米協会」(藤崎一郎会長)が設立100周年を記念し、草の根レベルの友好関係の発展に貢献した人を

年にわたり英語教育に携わってきた和歌山市の藪添泰弘さん(72)が選ばれた。
第2次大戦中に米国で強制収容されたツチヤさんは戦後、1959年のロサンゼルス・名古屋両市の姉妹都市提携をはじめ、日米の交流事業を長年支えた。

表彰する「金子堅太郎賞」を創設した。初代会長で、明治時代に米国で学び、伊藤博文内閣の閣僚も務めた

藤崎文内閣の閣僚も務めた金子の名を冠した賞の第1回受賞者には、米国ロサンゼルス在住の日系2世ジーン・ツチヤさん(95)と、長

40年以上、米国人留学生らのホームステイを受け入れてきた。

著名人を対象とする「特別賞」には、江戸時代の絵師・伊藤若冲の作品収集で知られるジョー・プライスさん(87)が選ばれた。